

中学校第2学年 国語科 学習指導案

日 時 平成21年9月9日（水）第5校時
場 所 宇城市立小川中学校
指導者 教諭 高木 真也

1 題材名 人間のきずな「字のないはがき」 向田邦子

2 題材について

- (1) 日々の生活の中で、人と人とのつながりを改めて意識することは少なく、互いが大切な存在であることに気付かないことが往々にしてある。しかし、何かの事情で互いの距離が隔たるとような非日常を体験したとき、普段見えなかった互いの存在と、その存在が自分にとっていかに大切かということがはっきりと意識される。

本題材「字のないはがき」には筆者の父の思い出がつづられている。親元を離れて暮らす筆者に宛てたたくさんの手紙と妹の疎開にまつわる「字のないはがき」の二つの思い出が筆者に父の存在の確かさを実感させたように、読む者にも父を取り巻く母や筆者、妹たち、弟のやりとりを通して、思いやりで結ばれた温かい家族の雰囲気が伝わってくる。それぞれの場面での家族一人一人の心情はもちろん、当時を思い出し、振り返っている時点での筆者の思いを丁寧に読み取ることで、単元名でもある「人間のきずな」について深く考えさせることのできる作品である。

- (2) 本単元の系統は次のとおりである。

1年	2年	3年
3 心のあゆみ 人物の心情に寄り添いながら、作品を味わう。 ○麦わら帽子 ○大人になれなかった弟たちに……	3 人間のきずな 情景や心情の描写をとらえ、作品を味わう。 ○盆土産 ○字のないはがき	3 状況に生きる 表現の特徴を味わい、状況と人間とのかかわりを考える。 ○挨拶－原爆の写真によせて－ ○故郷

この他に1年時に「少年の日の思い出」（小説）「胸の底の人と言葉たち」（随筆）を、2年第1単元で「雨の日と青い鳥」（小説）などの文学的文章を学習し、登場人物の心情や情景描写について学習している。

- (3) 生徒の実態

男子21名、女子14名、計35名のクラスである。発問等への反応もよく、挙手による発表も多い。しかし、発表する生徒が偏ったり、思い付きだけで発言したりする生徒も見られるなどじっくりと思考していく姿勢に欠ける面もある。

平成20年度県学力調査の本学年の結果では「話す・聞く能力」「書く能力」について、表現力に課題が見られた。

また、平成21年4月に実施した標準学力検査の本学級の結果においては「読むこと」の領域で「心情や情景の読み取り」「叙述に即した読み取り」に関する通過率が約40パーセントと低かった。

一方、本学級へのアンケート結果では、本時の学習活動に関わる「自分の意見や感想を書く」「心情や主題を読み取る」「話し合いや友達の意見を聞く」ことが好きと答えている生徒が、約40パーセントいる。生徒たちの意欲を生かしながら、発問やワークシート等を工夫することで、じっくりと落ち着いて思考し、さらに自分の思いを豊かに表現できる場面を設定していきたい。

- (4) 指導にあたっては次の点に留意する。

- 筆者、家族、その中でも特に父の心情を読み深めていくことを指導の柱とする。
- 父の心情に迫るために、本時では娘（筆者）の立場から書かれている文章を父の立場から書き換えるという言語活動を取り入れる。
- 父の立場から書き換えることで父の心情を想像して読んだり、自分の言葉で父の心情を書き加えたりすることで読み深めることができるようにする。
- 書いた作品を交流する場面では、相互評価の観点を示し、友達の作品のよさに気付くことができるようにする。

〈人権教育の視点〉

本題材は「家族」特に「父」をテーマとした題材である。生徒の家庭環境について担任

と事前に連携をとり、しっかりと把握しておきたい。また、生徒の言動に常に留意し、自他の家族を尊重する雰囲気を作るよう努めたい。

〈思考力、判断力、表現力の育成に関する視点〉

筆者への手紙にまつわるエピソード、妹へ持たせたはがきにまつわるエピソードを通して生徒たちは父の子供（家族）に対する愛情を感じることができると考えられる。本時ではその愛情が深いからこそ生じる親としての煩惱、葛藤等もとらえさせたい。そして、自分が考えた思いを父の心の言葉として表現させたい。

〈熊本型授業の具体的展開に関する視点〉

本時までに学習し読み取ったこと（父の人物像、時代背景、家族が置かれた状況など）をしっかりと踏まえ（活用し）、父の心情を自分の言葉で表現させたい。

3 題材の目標と評価規準

題材の目標	○優れた表現から登場人物の人柄や心情を読み取り、人間の優しさや温かさを読み味わう。
国語への関心・意欲・態度	○作品から読み取ることのできる人物の人柄や心情を通して、家族や人間のきずなについて考えをまとめようとしている。
読む能力	○情景描写や会話などから、父の人柄や子どもたちへの思いを読み取っている。
書く能力	○登場人物の言動の意味などを考えて父の心情を想像し、それを自分の言葉で書いている。
言語事項	○慣用的な表現や多義的な意味を表す語句の意味・用法に注意して読んでいる。

4 言語活動と熊本型授業の関連及びその指導計画（4時間取扱い）

次	時	主な言語活動	指導上の留意点 熊本型授業（能動型・徹底指導）	思考力、判断力、表現力 に関する評価（方法）
1	1	○新出漢字及び難語句について調べ、意味を理解して音読する。 ○内容や表現の仕方について感想を交流する。 ○日常の父と手紙の中の父の姿を読み取る。	〔徹底指導〕 ○多義的な意味を持つ語について理解させる。 ○人物を表現する語句を根拠に人物像をとらえさせる。 〔能動型学習〕 ○初発の感想を交流し、疑問や感じたことを共有する。	○自分と友達との考えの違いを大事にしながら交流し、学習の見通しを持つことができる。（観察）
2	1	○時代背景、家族の置かれた状況を理解する。 ○妹の様子や父との関わりを読み取る。	〔徹底指導〕 ○資料などを活用し、戦時下の状況などについて理解させる。 ○叙述にそって父の思いについて考えさせる。	○父の末の妹に対する思いを想像することができる。（シート・発表）
	2 本時	○筆者の立場で書かれた文章を父の立場から書き換えることを通して父の心情を想像する。 ○書いたものを班や学級で交流して読みを広げ考えを深める。	〔徹底指導〕 ○視点を変えて文章を書き直すやり方を理解させる。 ○書かれた心情や会話文が人柄等に即して想像したものであるか確認させる。 〔能動型学習〕 ○書いたものを班、学級で交流し、読みを深める。 ○これまでに読み取った父の人物像、家族の置かれた状況などを踏まえて、父の心情を想像する。	○読み取った場面の状況や人物像を踏まえて父の心情を想像することができる。（シート・発表） ○想像した父の心情を自分の言葉で書くことができる。（シート・発表）
3	1	○評価問題に取り組む。 ○学習のまとめをする。		

5 本時の学習

(1) 目標

- 末の妹が帰ってきたときの父の心情を読み深めることができる。

(2) 展開

過程	学習活動【学習形態】	徹底 能動	主な発問・指示等	教師の指導及び評価	備考
導入 5 分	1 これまでの学習を振り返り、家族の置かれた状況を確認する。 【一斉】	徹底	○終戦の年の家族の状況や心情を振り返りましょう。	○それぞれが生活している場所を確認し、家族が離れて暮らしていることを押さえる。 ○末の妹の疎開先での様子を振り返らせる。	ワークシート2
展開 5 分	2 本時の課題を知り通読する。 【一斉】	徹底			
	末の妹が帰ってきたときの父の心情を想像しましょう。				
	3 末の妹が家を出るとき父の心情を想像する。 【一斉】	徹底	○書き換えるやり方をつかもう。	○末の妹が家を出る場面を父の立場から書き換えた例文を示す。 ○筆者（娘）の立場で書かれている文章を父の立場から書き換えることを理解させる。	例文
15 分	4 末の妹が帰ってきたときの父の心情を想像する。 【個人】	能動	○末の妹が帰ってきた場面を父の立場から書き換えてみましょう。	○叙述に即して父の立場で書かせ、これまでにとらえた父の人物像を生かし、父らしい文にさせること。 ○父の「心の声」を想像し、自分の言葉で書き加えることを注意点として指導する。	ワークシート3
10 分	5 書いた作品を班で交流し、他班に紹介したい作品について話し合う。 【班】	能動	○各自が書き換えたものを班で読み合いましょう。 ○父の心情や表現の仕方など、他の班に紹介したい作品を選びましょう。	評価 B 叙述に即して父の立場から文章を書き換えている。 【シート・観察】 A 父の立場から文章を書き換え、「心の声」を想像して書き加えている。 【シート・観察】	ワークシート3
7 分	6 紹介したい作品を発表する。 【一斉】	能動	○他班に紹介したい作品を発表してください。 ○自分の考えと比べながら聞きましょう。	○自分の考えとの共通点や相違点を考えながら交流するように指示する。	
5 分	7 交流と発表を踏まえて父の心情をまとめる。【個人】		○交流や発表を通して父の心情をどのようにとらえたかまとめましょう。	○自分では気付いていなかった点などに着目させ、読みの深まりを実感させる。	
終末 3 分	8 教師のまとめと次時の学習活動を聞く。【一斉】	徹底		○生徒から出されたものが叙述に即したものであったか、読み取ったことを活用したものであったかに触れてまとめる。 ○学習のまとめとして評価問題に取り組むことを伝える。	